レター

猫の皮膚クリプトコッカス症の1例

A Case of Feline Cutaneous Cryptococcosis

末次文雄* 末次奈美

マリアペットクリニック

Fumio Suetsugu*, Nami Suetsugu

Maria Pet Clinic

6歳齢，避妊雌，体重3.6 kgの雑種猫が，数日前から右胸部および後頭部の皮膚における隆起性病変，ならびにくしゃみを主訴に平成21年5月15日に本院を受診した。稟告によると，症例は室内外を自由に出入りしているとのことであった。初診時，身体検査において右胸部には波動感のある母指頭大の皮下結節を認め，結節の中央は潰瘍化して排膿を認めた (Fig. 1)。また後頭部の皮膚には米粒大の丘疹が認められた。皮膚病変を除いては，身体検査上で特記すべき異常は認められなかった。皮膚細菌感染症を疑い，オルビフロキサシン $5 \text{ mg kg}^{-1} \text{ q24h}$ を投与したものの，臨床症状の改善を認めなかった。そこで初診時より7日目に，胸部の潰瘍部位から採取された膿汁の直接塗抹標本，ならびに後頭部皮下結節の針吸引生検材料について細胞診を実施した。その結果，いずれの試料からも莢膜を有する円形の酵母様真菌が多数見出され (Fig. 2)，さらに両試料の真菌培養検査 (株式会社 江東微生物研究所) にて *Cryptococcus neoformans* が同定された。なお自験例では血清抗FIV抗体ならびにFeLV抗原ともに陰性であり，完全血球計算および血液生化学検査，ならびに胸部および頭部X線検査のいずれにおいても異常は認められなかった。以上の結果より，本症例をネコの皮膚クリプトコッカス症と診断した。

自験例では，イトラコナゾール (イトリゾール，ヤ

Fig. 1. Clinical findings of the cat. Ulceration and draining on a nodule are recognized on the lateral thorax.

Fig. 2. Cytology shows capsulate yeasts with the small number of neutrophils or lymphocytes (Wright-Giemsa's stain).

*連絡先：末次文雄 (マリアペットクリニック)
〒211-0015 神奈川県川崎市北谷町103-3
TEL/FAX 044-555-3611
E-mail: poteji.suetsugu@nifty.com

ンセンファーマ株式会社，東京 5 mg kg⁻¹ q24hの内服により加療した。その結果，くしゃみ症状は治療開始後1週間で，また皮膚症状は約1ヵ月で消退したため治療を終了した。現在は治療終了から4ヵ月が経過するが，くしゃみおよび皮膚症状の再発は見られていない。

クリプトコッカス症は，莢膜を有する酵母様真菌である *Cryptococcus neoformans* による感染症である。主な感染源は鳩の糞，あるいは糞により汚染された土壌であると考えられている。症例の多くでは菌に汚染された塵埃を吸引することで，まず呼吸器感染が成立する。その後，感染巣は血行性に多臓器に播種する場合もある。一方で，無症状の犬の14%，猫の7%においても，鼻腔内よりクリプトコッカスの菌体が検出されたとの報告がある¹⁾。また，FeLV や FIV による感染，あるいはグルコルチコイド製剤の長期投与などによる免疫抑制状態が，本症の発症に関与することが指摘されている^{1, 2, 4)}。しかし自験例では，北宮らによる報告例³⁾と同様に，一般状態ならびにウイルス検査も含めた各種検査結果ともに異常は認められず，またグル

ココルチコイド製剤を含め先行する投薬歴も認められなかった。このことから，免疫抑制状態が疑われない猫においてもクリプトコッカス症が発症しうる可能性が示唆されるとともに，同症が鑑別診断に含まれる猫に対しては積極的に細胞診を実施することが推奨されることが考えられた。

引用文献

- 1) Ettinger, S.J. and Feldman, E.C. 2000. pp. 468–471. *In*: Textbook of Veterinary Internal Medicine, 5th ed, W.B. Sanders, Philadelphia.
- 2) Gross, T.L., Ihrke, P.J., Walder, E.J. and Affolter, V.K. 2005. pp. 295–297. *In*: Skin Diseases of the Dog and Cat, Clinical and Histopathologic Diagnosis, 2nd ed, Blackwell Science, Oxford.
- 3) Kitayama-Munakata, E., Ando, J., Kano, R. and Nagata, M. 2007. *Jpn. J. Vet. Dermatol.* 13: 199–202.
- 4) Scott, D.W., Miller, W.H. and Griffin, G.E. 2001. pp. 395–400. *In*: Small Animal Dermatology, 6th ed, W.B. Sanders, Philadelphia.